

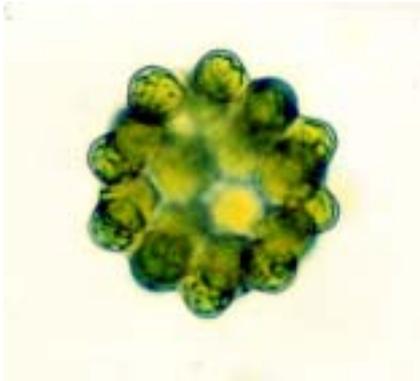
# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第24報 ～

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成14年9月17日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



*Coelastrum microporum*

（ケラスツルム）

緑藻綱

群体の形は、球形で4-8-16-32個の細胞からなる。細胞は、球形で細胞壁には突起などを持っていない。広分布種とされる。

動物プランクトン第1優占種



*Eodiaptomus japonicus*

（ヤマトヒゲナガケンミジンコ）

甲殻類

北湖で夏の間、上層に多く見られる。  
体長は雌1～1.4mm、雄1～1.2mm。  
第1触角は長く叉肢刺毛をこえる。

コメント

植物プランクトンは、総細胞数は引き続き少なく、その中でケラスツルム ミクロポルムがやや多かった。ケラスツルム ミクロポルムは、以前から琵琶湖で見られてきた種であるが、細胞数としてはそれほど大きな数にはならなかった種である。動物プランクトンは、ヤマトヒゲナガケンミジンコが最も多かった。この種は広分布種の種であるが、この調査ではこれまであまり見られてこなかった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

（1）動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
甲 殻 類	<i>Eodiaptomus japonicus</i>	60

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
甲 殻 類	Nauplius	20

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成14年9月17日

第24報

## (2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Anabaena macrospora</i> var. <i>crassa</i> *	22		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	16		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	140		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	30		
(緑) <i>Coelastrum microporum</i>	160		
(藍) 藍藻綱	22	5.8	25.6
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	26	6.9	4.9
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	140	37.0	43.3
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	190	50.3	26.2
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細胞 数	378	総体積 ( $\mu\text{m}^3$ )	5.50E+05
種 類 数	6		

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし\*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。